



高知県立図書館

# 闘病記・看護の記録

Ver.2



平成 21 年 4 月作成

## 高知県立図書館 「闘病記・看護の記録」について

生きる道のりの上で、人は喜びとともに様々な困難や苦しみにも出会うものであり、「病」もその一つです。

病と向かい合ったとき、いかに生きていくのかについては、多くの方が体験記録を残しています。

高知県立図書館では、これらの図書を「闘病記・看護の記録」として、病気の種類ごとに分類し、健康情報コーナーに設置しています。

病に伏したとき、困難な状況に出会ったとき…苦しみを乗り越え、希望を見出し、やがては平穏な心や喜びに届くよう、生き方のささやかな手がかりとなる1冊が見つかることを願っています。

## このリストの見方について

「闘病記・看護の記録」には、様々な観点の図書があります。本人の闘病記、家族による看護記録、ライターによるドキュメント、医師から見た記録など…。高知県立図書館では、職員が1冊1冊に目を通し、「誰が」「誰について」「どのような観点で」書いたものなのかを確認した上で、リストを作成しました。自分に合った本に出会う手助けとなれば幸いです。

1 がん						
病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
1 がん全般	がんを超えて生きる 生きる意味の再発見	R・ヴェレス ドイツの医療心理学者	人文書院	1999	494.5	心理学者から見た闘病 この本のテーマは「私たちの命をおびやかすものとのつき合い方」です。命にとって危険なもの、脅威となるものは私たちを不安に陥れます。しかし見方を変えてそれらをチャレンジと受け取ることができたら、私たちはより高い意識に目覚め、より強い自分を育て、そしてより深く自分自身を信頼できるようになるでしょう。(「第一章」p.15より)

1 = 病気ジャンルごとの通番。闘病記には残念ながら登場人物が亡くなるものもありますが、その場合は番号欄が黄色になっています。

2 = 病気の種類。本文から病名に関する記述を拾っています。

3 = 著者の当時の所属です。

4 = 誰が誰について、どのような観点で書いた本かを確認し、簡潔にまとめました。

5 = 日販 MARC の内容データ部分を転載しています。内容データがない場合は、斜線をほどこすか、本から直接内容について引用し、引用箇所を ( ) で示しました。

## 1 がん

68冊

がん全般／胃がん／食道がん／肝臓がん／膵臓がん／胆管がん／虫垂がん／直腸がん／盲腸がん／大腸がん／肺がん／乳がん／卵巣がん／小児がん／脳がん／舌がん／口腔底がん／  
上咽腫瘍／甲状腺がん／扁平上皮がん／粘液性嚢胞腺がん／脊髄・脳腫瘍／多発性骨髄腫／悪性リンパ腫／横紋筋肉腫／睾丸がん／左大腿部がん／膀胱がん／鑑状がん／ など

## 2 脳や神経の病気

45冊

クモ膜下出血／脳溢血／脳卒中／脳こうそく／脳性マヒ／心身障害・知的障害・脳障害など／脳挫傷／ダウン症／認知症／注意欠陥多動性障害／高機能自閉症／筋ジストロフィー／  
筋萎縮性側索硬化症／重症筋無力症／小児麻痺／パーキンソン病／ギラン・バレー症候群／ など

## 3 こころの病気

22冊

うつ病・躁うつ病・精神性うつ病／パニック障害／強迫性障害／統合失調症／アダルト・チルドレン／依存症／過食症・拒食症／心因性疼痛障害／ など

## 4 内臓や血液の病気

16冊

食道潰瘍／肝硬変／C型肝炎／憎帽弁閉鎖不全／アイゼンメンガー症候群・肺高血圧症／心筋梗塞／腎不全／ネフローゼ症候群／喘息／白血病／ホジキンリンパ腫／ など

## 5 エイズ・薬害など

13冊

エイズ・薬害エイズ／サリドマイド障害／スモン病／MRSA／サリン中毒／ など

## 6 その他の病気

22冊

子宮内膜症／不妊症／更年期障害／膠原病／「寝たきり」／骨粗しょう症／リュウマチ／脊髄腫瘍／変形性股関節症／頸髄外傷／筋肉種／視力障害／円形脱毛症／顔面疾患／水頭症 など

合計 186冊

# 1 がん

病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
1 がん全般	がんを超えて生きる 生きる意味の再発見	R・ヴェレス ドイツの医療心理学者	人文書院	1999	494.5	心理学者から見た闘病 この本のテーマは「私たちの命をおびやかすものとのつき合い方」です。命にとって危険なもの、脅威となるものは私たちを不安に陥れます。しかし見方を変えてそれらをチャレンジと受け取ることができたら、私たちはより高い意識に目覚め、より強い自分を育て、そしてより深く自分自身を信頼できるようになるでしょう。(「第一章」p.15より)
2 がん全般	自分を生ききる 日本のがん治療と死生観	中川 恵一・養老 孟司 大学教授	小学館	2005	494.5	医師2名の対談 人生の時間が無限に続くとする錯覚が現代日本人には蔓延しているように思えます。限りある命を大切に、いまある時間を大事に生きるということを考えていきたいと思います。本書を通して、皆様の人生が素敵なものになることを願います。(「はじめに」p.3より)
3 がん全般	生きがい療法の証明 もう一つのガン治療	伊丹 仁朗 医師	海竜社	1998	494.5	医師による生きがい療法紹介 生きがい療法は、こうした心と脳の働きを活用して、ガン・難病に上手に対処し、キラ細胞を強くしていくための科学的・心理学的なプログラムなのである。(中略) 本書は、生きがい療法のアウトラインを最新の情報をちりばめながらまとめた解説書である。(「あとがき」p.230より)
4 がん全般	私のがんを恐れなくなった理由	逸見 晴恵 逸見政孝の妻	扶桑社	2001	494.5	患者の家族の立場で見たがん この本は、公園で会いお話をしたかたがた、対談で知った医師たちの取り組み、そして自分が学んだこと、それらのなかで、私が理解できて伝えることができる、インフォームド・コンセントにも、インフォームド・チョイスにも役立つ基礎知識を、整理してお届けしたいと思います。(「はじめに」p.9より)
5 がん全般	山がくれたガンに負けない勇気	小嶋 修一 TBS報道編集長	山と溪谷社	2002	494.5	生きがい療法実践会の登山の実例など 「生きがい療法」としてモンブランに登頂した7人のガン闘病患者とその家族のその後を追跡しながら、ガンのメカニズムと登山の関係を綴る。ガンを背負って山に挑み勇気を示した、数多くのサバイバーたちの物語。
6 がん全般	がんを生きる	竹内 一郎 演出家・劇作家	曜曜社出版	1994	494.5	生きがい療法実践会の事例など
7 がん全般	がんに挑む	石塚 光行 毎日新聞記者	毎日新聞社	1982	915.9/1	新聞に連載された一般人のドキュメント。患者本人、家族、看護師など。(死去事例含む)

	病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
8	がん全般	ガン 50人の勇気	柳田 邦男 作家	文藝春秋	1990	915.9/Y	回想談や遺稿や追悼記を元に、作家がまとめたがん患者約50人の生き様(死亡事例あり)
9	胃がん	日本列島徒歩横断！がん克服落語会	笑福亭 小松 落語家	講談社	1998	494.5	本人による闘病記 この小さな一冊は、旅の夜、出会いの感動や心の想いを私が書き綴った列島の旅の記録です。それはまた、がんを笑いとばしてもっと長く生きたい私自身の「心の軌跡」であると同時に、わが息子と娘への「父親の遺書」と呼べるものかもしれません……。(「プロローグ」p.7より)
10	胃がん	吾輩はがんである	笑福亭 小松 落語家	講談社	2002	779.1	本人による闘病記・対談 5年生存率15%を乗り越え、元気に生きる姿は同じ病を背負う人々、家族に希望を与え続けてきた。再発の恐怖も吹き飛ばして長く生きて行ける秘訣。落語家として、父として、夫として、刻み続けた5年間の心の軌跡。
11	胃がん	いのちに限りが見えたとき 夫と「癌」を生き て	星野 周子 一般人	サイマル出版 会	1996	915.9/H	妻による夫の闘病の記録(夫死去) また、ちょっとした油断が取り返しのつかぬことにならぬよう、早期発見がいかに大切であるかを訴えたい。四人にひとりが癌になる世の中である。地震などの天災に備えるがごとく、突然襲ってくる病魔もあることを念頭に、こころを磨いておくのも決して無駄ではないであろう。(「まえがき」p.5より)
12	胃がん	ガン再発す	逸見 政孝 アナウンサー	廣済堂出版	1994	915.9/I	本人による闘病記および妻の補筆(本人死去)
13	胃がん	妻の大往生	永 六輔 作家	中央公論新 社	2002	916/エイ	夫、家族による対談など(本人死去) 夫として病気の発見が遅れたことの責任は感じています。でも、貴女は医者が絶句したときも、元気といえる状態でした。その中での「告知」。家族の「狼狽」。そして在宅ホスピスの「団結」。貴女の看取り方、看取られ方が、多くの人たちの共感を呼び、在宅医療スタッフには、貴女も感謝、家族も頭が下がりました。この本は、そのスタッフと貴女の友人たちに、「ありがとう」の思いをこめてまとめられたものです。(「まえがき」という名の甲辞)p.1-2より)
14	胃がん	告知 外科医自ら実践した妻へのガン告知 と末期医療	熊沢 健一 外科医	マガジンハウ ス	1999	916/クマ	夫による妻の闘病の記録(本人死去) 以来、私はずっと告知には消極的な態度を取ってきました。しかし、不治の病に倒れた妻と接しているうち、その考えは間違っていると感じるようになったのです。告知されると、患者は何も希望が持てないのでしょうか。身体的、そして時間的に制約は受けるものの、どんな状況でもみんなの努力で希望は持てるし、持たしてやることのできるのです。(「あとがき」p.224より)

	病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
15	胃がんほか	ガン告知その後	横山 宏 新聞記者	朝日新聞社	1994	915.9/Y	新聞記者による告知された5人の闘病患者のルポ
16	食道がん	おい呑め酌みかはさうぜ秋の酒 江國滋闘病日記	江國 滋 随筆家	新潮社	1997	915.6/エウ	本人による闘病記(本人死去) 新潮社の発行する定期購読誌『フォーサイト』に、江國は彼ならではの俳句コラムを書き続けていた。(中略) 江國自身が「私のライフワーク」とつねづね口にしていたものだった。その最終回は自分に対する追悼句で締めくくる(「はじめに」p.7より) おい呑め酌みかはさうぜ秋の酒 の辞世句を残して、江國さんは帰らぬ人となった。(「俳人・滋醉郎のこと」p336より)
17	肝臓がん	いのちと生きる	重兼 芳子 「生と死を考える会」世話人	中央公論社	1993	915.9/S	本人による闘病記(夫が闘病中に突然死)
18	肝臓がん	病棟の光と翳	阿部 幸子 大学教授	探求社	1992	915.9/A	本人による闘病記
19	膵臓がん	ガンと上手につきあいなはれ	黒田 清 新聞記者	徳間書店	2000	493.4	第1章・第2章:本人による闘病記、第3章:家族や関係者からのコメント、亡くなるまでの毎日の記録(本人死亡) ガンと最期まで全力で闘うのではなく、《ガンと上手につきあう》ことを親父は望んだ。息子である私が医者であっても、親父にしてあげられたただひとつのことは、口がきけなくなった親父のかわりに意思表示して、最期の最期まで、《ガンと上手につきあう》の手伝うことだけだったような気がする。(「第3章」p248-249より)
20	膵臓がん	大学病院で母はなぜ死んだか	古森 義久 新聞記者	中央公論社	1995	915.9/K	息子による母の闘病の記録(母死去)
21	膵臓がん	七平ガンとかく闘えり	山本 れい子・山本 良樹 一般人	KKベストセラーズ	1994	915.9/Y	息子による父の闘病の記録(父死去)
22	胆管がん	ガン病棟のピーターラビット	中島 梓 作家	ポプラ社	2008	916/ナ	本人による闘病記

	病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
23	虫垂がん	がんから始まる	岸本 葉子 エッセイスト	晶文社	2003	916/キシ	本人による闘病記 40歳独身、ひとり暮らしのがん患者。自分らしくあるために、サポートグループに入会、漢方、食事療法、行動療法…。生活や女性の感情の細部を描いてきた著者が綴る、渾身のがん闘病記にして、静謐なこころの軌跡。
24	虫垂がん	がんから5年「ほどほど」がだいじ	岸本 葉子 エッセイスト	文藝春秋	2007	914.6/キシ	本人による闘病後の生活についてのエッセイ（医師との対談、香山リカからの座談会も収録） この本には、がん治療後三年から五年半過ぎまでの、日々の思いや心の変化を書きました。いまだ、おっかなびつくりの面もあるけれど、それらも含め「年をとっていく」という普遍的なことへ、自然につなげていける気が、人生の先輩がたや同世代との語らいを通して、しています。思うにまかせない部分は、誰にとっても増えていく。「ほどほど」のところで、張り合いを持ち、日々を過ごしたいと願っています。（「あとがき」p245より）
25	直腸がん	鬼よ、笑え「旅の夏」「がんの夏」日記	小島 直記 棋士	新潮社	1992	915.6/K	本人による闘病記
26	盲腸がん	人は死ねばゴミになる	伊藤 栄樹 検事	新潮社	1988	915.9/I	本人による闘病記(本人死去)
27	大腸がん	生命をみつめる 進行癌の患者として	阿部 幸子 岡山大教育学部教授	探究社	1991	915.9/A	本人による闘病記
28	大腸がん・胃がん	三度目のガンよ、来るならごゆるりと	梅原 猛 大学教授	光文社	2001	494.5	本人の闘病記および医師のコメント この本は私がガンという病気にかかったことやこれからもやりたい仕事の話などをして、そのあとに私の病気と関わった五人のお医者さんの手記を書き加えたものである。（「あとがき」p.247より）
29	肺がん(脳へ転移)	妻と私	江藤 淳 作家	文藝春秋	1999	916/エト	夫による闘病の記録(本人死去)
30	肺がん	ガン病棟の九十九日	児玉 隆也 ルポライター	新潮社	1975	915.9/K	前半は夫による闘病記(本人死亡)、後半は妻による回顧録

	病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
31	肺がん	ゆーわけ、こわけ 死を歩む母、グループケアの記録	水沢 周 フリー編集者兼ライター	文芸春秋	1991	915.9/M	息子による母の闘病の記録(母死去)
32	肺がん	がん病棟周章狼狽記	たいら まさお フリーライター	草思社	1992	915.9/T	本人による闘病記
33	右膝のがん・肺がん	飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ 若き医者が死の直前まで綴った愛の手記	井村 和清 医師	祥伝社	1981	915.9/I	本人による闘病記および関係者コメント(本人死去)
34	乳がん	乳がん・乳房温存療法の体験	イデアフォー(編) 乳がん患者が中心のボランティアグループ	時事通信社	1993	495.4	乳がん患者の体験談
35	乳がん	フランス流乳がんつきあう法	木立 玲子 フリージャーナリスト	毎日新聞社	1999	495.4	本人の体験談とフランス医療への考察 退院後、まさに戦い済んで日が暮れてといった心境でサルモン先生の診療室にいたときだ。話題は日本とフランスの乳ガン事情の違いに及んだ。既に東京で手術を受けた知人から日本の概要は聞いていたため、違いの背景に潜む素顔が知りたいと強く思った。そんなときである。本を書く話が舞いこんだのは。(「あとがき」p.242-243より)
36	乳がん	アメリカで乳がん生きる	松井 真知子 大学教授	朝日新聞社	2000	495.4	本人による闘病記 乳がん「先進国」のアメリカは乳がん治療研究の分野でも先進国であるといわれている。医療面だけでなく患者を精神的・社会的にサポートする支援体制も整っている。乳がん治療の分野でも次々に画期的な治療法が発見されているし、今までのアメリカ医療を特徴づける攻撃的でゆき過ぎた、検査と薬づけのがん医療にあり方にも深刻な反省の声が出はじめている。(「はじめに」p.7より)
37	乳がん	わたしは生きたい！ジル・アイランドのがん闘病記	ジル・アイランド 映画女優	フォー・ユー	1987	778.255/A	本人による闘病記
38	乳がん	乳ガンなんかに負けれない	千葉 敦子 フリージャーナリスト	文芸春秋	1987	915.9/C	本人による闘病記(のちに死亡)

	病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
39	乳がん	よく死ぬことは、よく生きることだ	千葉 敦子 フリージャーナリスト	文藝春秋	1987	915.9/C	本人による闘病記(のちに死亡)
40	乳がん	乳がんのうた	市井 ノリ子 保健師	保健同人社	1990	915.9/I	本人による闘病記
41	乳がん	乳房再建	三島 英子 形成外科医の妻	小学館	1995	915.9/M	本人による闘病記(母が闘病中に末期の胃がんで死亡)
42	乳がん	いのちの響き みえるものみえないもの	遠藤 郁子 ピアニスト	海竜社	1998	916/エン	本人による闘病後の活動の記録 奏でられた音色が奇跡の物語を紡ぎだす。甦ったピアニストがたどる癒しのドキュメント。
43	乳がん	遺書 笑う乳がん闘病記	田原 節子 元アナウンサー	集英社	2004	916/タ	本人による闘病記(本人死去)・夫や家族による記録・医師のコメントなど たまたま私自身の体が、がんという病気になっただけじゃないの。実際、病気を経過してみると、病気である時間は何パーセントかで、病気じゃない時間のほうが多い。それなのに、なぜ100パーセント病人だと考えなくちゃいけないの？病気は闘うものじゃなくて、泣いたり笑ったりしながら、ときどき病人になる。それくらいがちょうどいい。(「プロローグ」p.7より)
44	乳がん	余命1ヶ月の花嫁	TBS「イブニング・ファイブ」／編	マガジンハウス	2007	916/ヨメ	TBS「イブニング・ファイブ」で報道された24歳女性の闘病ドキュメンタリー番組を書籍化(女性は死去) 「余命1ヶ月の花嫁」は「物語」ではない。24歳の女性が懸命に生きた「現実」の記録だ。最後の1ヶ月。千恵さんは苦しかったに違いない。つらかったに違いない。しかし、みんなと笑い、まわりの人に感謝し、最後の瞬間まで自分らしく生きた。そして、彼女を愛する人たちは最後まで千恵さんが千恵さんらしくあるために懸命の努力を重ねた。番組はそのありのままを伝えたつもりだ。(「あちがき」p218より)
45	乳がん	彼女が乳がんになって考えた	ブレンダン・ハルビン／著 大嵐 双恵／訳 一般人	ソニー・マガジンズ	2003	936/ハル	夫による妻の闘病の記録 33歳、高校教師、ホラー映画とロック好き。大学からずっと一緒に妻と3歳の娘が一人。そんなぼくにある日突然試練が訪れた。妻が乳がんを宣告されたのだ、それも第4期(よくわからないがかなり悪いらしい)だという。いったいぼくはどうしたらいいのだろう…… あふれるユーモアと涙と笑いで綴る感動の闘病記。(見開きより)

	病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
46	乳がん	乳がんとともに	伊藤 末喜 一般人(高知県)	伊藤外科乳 腺クリニック	1996	K495/1	本人による闘病記 著者が、早期乳がん発見のための啓蒙書『よくわかる乳がんの話』(高知新聞社発行)を出してから11年になる。この間、乳がんの本質が変わったわけではないが、前述のように、手術方法など見かけ上の大きな変化が起こった。そこで、インフォームドコンセントをいっそう充実し、安心して治療を受けることができるための一助になればと思い、本書を出版することにした。(「あとがき」p.240より)
47	乳がん	命も乳房も守りたい	横井 あい 一般人(高知県)	高知新聞社	1997	K495/3	著者による高知医大放射線科の「乳房温存療法」についての取材と患者手記
48	乳がん・膵臓がん	わが妻の「死の美学」	亀井 俊介 妻:日本女子大学教授 夫:東京大学教授	リパティ書房	1993	915.9/K	夫による妻の闘病の記録(妻死去)
49	乳がん・卵巣がん	きっと良くなる必ず良くなる 多重がんとの闘いの記録	広野 光子 ジャーナリスト	PHP研究所	1998	495.4	本人による闘病記 がんは私たちに、「予後の人生をいかに生きるべきか」とつねに厳しく問いかける。数ある病気のなかでも、きわめて哲学的な病である。(中略) 遺書のつもりで書き始めたこの闘病記、未完のまま終わることなくいったん完結をみた。いま私は深い充足感に包まれ、「きょう眠って、あした目が覚めなかったら、それが死である」と納得もできている。私のいのちは“天”のもの。この世の役目が終わったら、喜んで土に還ろう。(「あとがき」p.290より)
50	精神分裂病／乳がん	哀しみの家族	宮城 賢 詩人	春秋社	1991	915.9/M	精神分裂病の夫による自己の闘病記、および乳がんの妻の闘病の記録(妻死亡)
51	小児がん	川の見える病院から がんをとたかう子どもたちと	細谷 亮太 小児科医	岩崎書店	1995	915.9/H	小児科医による病棟での記録・エッセイ
52	脳がん	極楽ガン病棟	坂口 良 漫画家	石風社	1997	916/サ	本人による闘病記(ルームメイト2名死去) 物語は4回目の入院である山口日赤病院での第一週目から始まる。(中略) 私はここにコバルト照射を受けるためにやってきたのだ。患部は脳ミソ、転移のある骨盤にも照射を受ける。頭は5週間の照射、腰は6週間。私の90日が始まる。(「まえがき」p.4より)
53	舌がん	ガンも自分 いのちを生きる	笹沢 左保 文筆家	海竜社	1994	914.6/S	本人による闘病記

	病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
54	口腔底がん	針千本 私のがん闘病記	江夏 美好 作家	河出書房新社	1982	915.9/E	本人による闘病記(友人死去)
55	上咽腫瘍	ガン封じ寺和尚の「死ぬに死ねない」ガン闘病記	高田 真快 住職	ポケットブック社	1991	915.9/T	本人による闘病記
56	甲状腺のがん	ガンを見ずえて生きる	青木 日出雄 航空評論家	講談社	1988	915.9/A	本人による闘病記
57	腺がん・扁平上皮がん	青空、ついて来い!	熊谷 真美・長川 千佳子 女優	新潮社	1998	916/クマ	娘による、がんの母との旅の記録(母死去) 私のママ、熊谷清子は、1996年の6月に亡くなった。57歳だった。前年の五月に告知されたガンのため、最後は福岡のホスピスで息を引き取った。そこにたどり着くまでに、私たちは、東京を出て伊豆、大阪、北九州と、各地を転々とした。(中略) この本はママと私の、約一年間にわたる大切な旅の記録である。(「プロローグ」p.8-9より)
58	粘液性嚢胞腺がん	ぼっちりの癌	鈴緒 千佳 一般人(高知県)	リーブル出版	2004	K493/117	本人による闘病記
59	脊髄・脳腫瘍	ひとりのひとを哀しむならば	大沢 恒保 作家	河出書房新社	1999	916/オオ	兄による弟(2名)の闘病記(弟は2名とも死亡、本人も闘病) 題名を「鎮魂歌」にしてもよかったという思いがある。だから、ある意味ではこれは祈りの書ということになる。そうではあるが、ただ、僕は祈るというのは神仏に手を合わせるのではなく、息を詰めてどこまでも相手をじっと見護ることだと思っている。(「著者あとがき」p.220より)
60	多発性骨髄腫	命いっぱい生きた日々	鴻農 周策 NHK放送局職員	日本放送出版協会	1994	915.9/K	本人による闘病記(本人死去)
61	多発性骨髄腫	多発性骨髄腫を生きる 1	三輪 敏広・三輪 和恵 一般人(X線技師)	春風社	2007	916/ミツ	本人と妻による闘病手記 同じ病に苦しむ人、情報を求める人へ。「多発性骨髄腫」の病状、医師の対応、治療、薬などを「親子新聞」から冷静に克明に綴る。難病を抱えながら支え合い、立ち上がり、生きることを楽しむ夫婦それぞれの記録。

	病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
62	多発性骨髄腫	多発性骨髄腫を生きる 2	三輪 敏広・三輪 和恵 一般人(X線技師)	春風社	2007	916/ミ7/2	本人と妻による闘病手記、巻末に子の記事(夫死亡) 「生きじゃない、生活がしたいんだ」。度重なる再発、忍び寄る病魔に負けず、夫婦は最後まで二人三脚、山を歩き、生きることを味わう。病を抱えたまま生きたひとりの人間「夫」が残した、膨大ないのちの記録第2巻。
63	悪性リンパ腫	アメリカ的ガン闘病記 すべては告知から始まった	リー・あおい テキスタイル・デザイナー	東京書籍	1999	916/リ7	妻による夫の闘病の記録(本人死去) 結果的には、夫は命を失った。しかし、アメリカで家族がひとつになって闘った七か月間は、今にして思えば幸せな経験だったとさえ言える。患者がいたいどんな状況にあるのかを、医者からの説明を受けて本人はじめ家族も逐一把握し、どんな治療が可能かを医者とことん話し合い、最終的に自分たちの判断で治療法まで決定したり拒否したりできる、そんな患者主体の医療もあるのだ。(「おわりに」p.238より)
64	横紋筋肉腫	明日(あした)もまた生きていこう 十八歳でがん宣告を受けた私	横山 友美佳 一般人(バレーボール選手)	マガジンハウス	2008	916/ヨ3	本人による闘病記(本人は執筆後本の刊行を待たず死去) オリンピックでの活躍を期待されたバレーボールのエースが病床で綴った「最後の夢」。バレーボールに打ち込み発病するまでの18年間と、闘病しつつ大学受験など新しい経験を重ね、夢を追い求めた3年間の全手記。
65	睾丸がん(肺に転移)	がんと向き合って	上野 創 新聞記者	晶文社	2002	916/ウエ	本人による闘病記 突然がん告知を受けた26歳の新聞記者が、2度の再発を乗り越え社会復帰を果たすまでの、命と死と愛を見つめた日々。苦悩と共に生きる人へ勇気と励ましを贈る1冊。朝日新聞神奈川版で大反響の連載を単行本化。
66	左大腿部がん	片足喪失の記	高槻 博 エコノミスト編集員	柘植書房	1995	915.9/T	本人による闘病記(左足切断)
67	膀胱がん・心筋梗塞	オレは陽気ながん患者 心筋梗塞もやったぜ!	山中 恒 作家	風媒社	2000	916/ヤマ	本人による闘病記(医師へのインタビューを含む) さて、かくいつ私も現在、心臓病とがんのために定期的に通院し検査や治療を受けている。ここで私の個人的な問題である「病」について語りながら、これまでの医師对患者の概念や、図式を壊して、病気をはさんで医師と患者が人間らしい関係に修復していく手掛かりを見出せていけたらと思っている。(「はじめに」p.10より)
68	鑑状がん	ガン患者が病院から追われるとき	岩松 久保 一般人	主婦の友社	1994	915.9/I	夫による妻の闘病の記録(妻死去)

## 2 脳や神経の病気

	病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
1	クモ膜下出血	親を看とらば	荒牧 規子／著 島本 達夫／指導 オペラ歌手	硯文社	1981	915.9/A	娘による母の闘病の記録・医師からのコメント・娘と医師の対談
2	クモ膜下出血	ある日突然・・・ 事件記者のクモ膜下出血闘病記	岡田 健三 新聞記者	大和書房	1988	915.9/O	本人による闘病記(医師のコメント、家族の看病記録含む)、および他のクモ膜下出血患者の体験談
3	脳溢血	二十三年介護	ねじめ 正一 作家	新潮社	2000	916/ネシ	作家である息子が、父の闘病について、母の手記や語りをまとめたもの(父死亡) 「後悔なんてあるわけないよ。お父さんはいのちの最後の一滴まで使い果たして亡くなったもの」長い間寝たきりで亡くなって、親父には後悔はなかっただろうかと訊ねたとき、二十三年介護の母はそう答えた。晴れ晴れとした答え方であった。(「序」p.12より)
4	脳溢血(右半身マヒ・失語症)	大熱闘闘病記	永倉 万治 作家	角川書店	1992	915.9/N	本人による闘病記
5	脳卒中	奇跡の生還 脳卒中と闘った365日	佐藤 正忠 経済評論家	経済界	1980	493.7	本人による闘病記 現代人が最も忌み嫌い戦慄する難病《脳卒中》に真正面から取り組み、発病後一年にしてそれを克服した著者が書き下ろした、苛烈な記録である。(見開きより)
6	脳こうそく	一生一度の学び	八ツ塚 実 教師	光泉社	1991	915.9/Y	息子による母の介護記録(母死亡)
7	脳こうそく	大好きなおばけちゃん いくこさんの老々介護	山花 郁子 児童文学者・童話作家	日本評論社	2001	916/ヤマ	娘による母の介護の記録。介護する日々の生活やふれあいの中でマッチする絵本や童話を紹介。 ぼけてしまった95歳の母と70歳の介護者の日々。童話作家である著者が、母の人生を辿りながら、母娘の日常物語を豊かに紡ぎ出す。
8	脳性マヒ	いくつになったら歩けるの	花田 春兆 一般人	ミネルヴァ書房	1974	915.9/H	本人による闘病記
9	脳性マヒ	闘病・子育て・処世の記	石塚 公子 一般人	トンボ	1990	915.9/I	本人による日々の闘病や子育ての手記

	病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
10	脳性マヒ	奇跡のラブちゃん 脳性マヒからの驚異の回復	小西 直樹・レイ子 一般人	彩古書房	1988	915.9/K	父と母の回想による対話をもとに、誕生からドーマン法による回復の道のりを編集
11	重度心身障害児	不思議の天音	山口 平明 不明	ジャパンマシニスト	2000	916/ヤマ	父の文章・母の挿絵でつづる日々の記録。父は脳梗塞で倒れる この本の文章は、大分県中津市で作家・松下竜一さんによって発行されている月刊「草の根通信」に、1997年3月号から99年6月号にわたり連載執筆させてもらったもの。ここから編集者によって19篇が選ばれ編まれた。妻・ヒロミの銅版画も連載時の順番をいれかえて収載できた。（「はじめに」より）
12	重度知的障害(次女)、精神分裂病(長女)	お母さんごめんなさい 母と娘の記録	平上 マキ 不明	新風社	1998	916/ヒラ	母による娘達の闘病と成長の記録(長女は親からかまわれず精神分裂病となり、自殺)
13	ダウン症	愛、見つけた 小さな命の置きみやげ	小林 完吾 アナウンサー	二見書房	1983	915.9/K	父による息子の誕生から死までの記録
14	ダウン症・心室中隔欠損症・心房中隔欠損症・動脈管開存症・食道閉鎖症	流れ星に祈りを込めて セヶ月で天使となったダウン症児の軌跡	おかもと めぐみ 一般人	かもがわ出版	2001	916/オカ	母親による出産から7か月後の死亡、次子の流産まで。巻末に障害児を生んだ親たちの手記を掲載(こちらには死亡事例なし) ダウン症児を産んだ著者が、約7か月間の入院生活の中で感じた病院のずさんな管理、医療の状況、役所への不満など現状を語る。病気や障害のある子どもとがんばっている人に贈る1冊。
15	重度脳障害	早穂理。ひとしずくの愛	塩沢 みどり フリーライター	原書房	1998	916/ナカ	父・母の口述をもとに、成長の記録をフリーライターがまとめたもの(主に母の視点) 重度の障害をもつ娘の母。絶望と極限を越えた日常の果てに彼女が見出したものは…… 喜びと希望の響きを呼び覚ます生命の讃歌。(見開きより)
16	脊髄破裂による脳障害	生きる日々 障害の子と父の断章	水上 勉 作家	ぶどう社	1983(9版)	915.9/M	父による娘の成長の記録
17	脳挫傷	落馬脳挫傷 破壊された脳との闘いの記録	石山 衣織 競馬騎手・石山繁の妻	エンターブレイン	2008	916/イシ	妻による夫(落馬事故で脳を損傷)の治療やリハビリの記録 人は、人なしでは生きていけない。落馬事故により脳挫傷を負った騎手のありのままの姿を妻が語る。脳が壊れるとはどういうことか、支え続けた妻の想いとは。壮絶なりハビリの日々と再生の物語。

	病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
18	日本脳炎による知的障害	たあちゃんがんばろうね 精薄児の母の記録	水野 美代 不明	弘文堂	1963	915.9/M	母による息子の成長の記録
19	知的障害など	第39回NHK障害福祉賞 実践記録入選集	受賞作11篇	NHK厚生文化事業団	2004	369.27	障がいのある方自身の体験記録、障がいのある人とともに歩んでいる人の実践記録 「NHK障害福祉賞」は、障害のある人自身の貴重な体験記録や、障害児・者の教育や福祉の分野でのすぐれた実践記録を募集するため、昭和41年度に創設いたしました。(中略) この冊子には、最優秀賞(1編)、優秀(4編)、佳作(5編)、そしてNHK厚生文化事業団創立から29年にわたり理事長をつとめた矢野一郎氏の業績を記念して、長年にわたる障害児・者の教育、福祉の実践記録および高齢障害者の体験記録における矢野賞(1編)の合わせて11編を収録しております。(「はしがき」より)
20	認知症	夫のかわりはおりまへん 前高槻市長の介護奮闘記	江村 利雄 元高槻市長	徳間書店	1999	493.7	夫による妻の認知症介護の記録 実は、私は若い頃、決して“いい夫”ではありませんでした。飲みに行って朝帰りをしたり、徹マンをしたり、給料すら家に入れなかった。それなのに、黙って私についてきてくれた妻への罪滅ぼしをしたい。そう思っの自宅介護です。(中略) 年間十万人が介護のために離職する時代です。素人のつなたい体験でも、何かひとつくらいお役に立つこともあるかもしれないと思いました。(「はじめに」p.2-3より)
21	認知症	母送りの記 介護の日々	木村 梢 作家邦枝完二の娘、俳優木村功の妻	文化出版局	1988	915.9/K	娘による母の認知症介護の記録、死去まで
22	認知症	忘れても、しあわせ	小菅 もと子 一般人	日本評論社	1998	916/コス	嫁による義母の認知症介護の記録 私はどこにでもいる中年のオバサンです。(中略) そんな私に「介護」は突然にやってきたのです。ひとり暮らしだった義母との同居。その義母が痴呆と診断を受け、痴呆のリハビリとして始めた絵画で個展を開くまでに至った三年あまりを、日誌をおりまぜてご紹介します。(「まえがき」より)
23	認知症	介護と恋愛	遥 洋子 タレント	筑摩書房	2002	916/ハル	娘による父の認知症介護と、自分の恋愛の記録
24	認知症	娘から父・丹羽文雄へ贈る朗らか介護	本田 桂子 料理研究家・作家丹羽文雄の娘	朝日新聞社	2001	916/ホン	娘による父と母の認知症介護の記録 娘はアルツハイマーを病む父、作家・丹羽文雄のために最良の介護を求め続けた。志半ばで急逝した著者から父へ、そしてすべての人への最後のメッセージ。夫の協力で緊急出版。

	病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
25	認知症	父・丹羽文雄 介護の日々	本田 桂子 料理研究家・作家丹羽文雄の娘	中央公論社	1997	916/ホ	娘による父および母の認知症介護の記録(著者はアルコール依存症も経験) 結婚をしても、父は理想の「父」であり続けました。その父が突然、アルツハイマーに襲われるなんて……。 (「プロローグ」p.14より)
26	認知症	痴呆の母を看取って	舛添 要一 国際政治学者	佼成出版社	2001	916/マ	息子による母の認知症介護、思い出、死までの記録 足かけ5年にわたって東京から北九州に通って、私は母の介護を続けてきましたが、その母も2000年秋に静かに息を引き取りました。苦勞の絶えなかった86年の生涯を終えて、今は天国で憩っていることでしょうか。葬儀も無事に終り、49日も経過して気持ちの整理がついた今、介護の日々を振り返ってみようと思います。(「第1章」p.9より)
27	認知症	母に襦袢(むつき)をあてるとき 介護闘いの日々	舛添 要一 国際政治学者	中央公論社	1998	916/マ	息子による母の認知症介護と、介護をめぐる親族での争いの記録 今書いているこの文章は、自分の体験を赤裸々に記そうという意図から出たものです。(中略) 日本人全体が取り組まねばならない介護という重い課題の解決に少しでもお役に立てればという視点から、母も私も力を合わせてこの文章を書きます。(「序章」p.5-6より)
28	認知症	母は旅人	佐藤 政子 一般人(高知県)	高知新聞社	1995	K916/サ	娘による母の認知症介護の記録(父は看護による過勞で、看護2年目に死去)
29	認知症	命ある限り 泣き笑い痴呆症介護日記	竹森 登和 一般人(高知県)	高知新聞社	1993	K916/タ	妻による夫の認知症介護の記録、死去まで
30	認知症(胃がん)	父83歳、ボケからの生還	樋口 恵子 全国自立生活センター協議会元代表(高知県)	現代書館	2004	K493/116	娘による父の闘病の記録 肺炎→胃がん手術→硬膜下血腫と立て続けに入院。ICU症候群、夜間せん妄やぼけ症状が出て心身の状態が急速に悪化した著者の父。死の一步手前で回復、三姉妹の奮闘と本人の頑張りで在宅介護にこぎつけるまで。
31	注意欠陥多動性障害	オロオロしないでいいだね！ADHDサバイバル・ダイアリー	白井 由佳 一般人・NPO法人「大人のADD/ADHDの会」代表	花風社	2002	493.7	本人による手記・対処法・ADHDについて 伝票が書けない。仕事が終わらない。家事もヘタ。何をやっても、うまくいかない。長続きしない……。ダメOL→結婚→離婚→シングルマザーというコースをたどり「うつ」に陥った私がたどり着いたのはADHDという診断だった。仕事、家事、人間関係……。自分の「障害」をきちんと見つめ「ダメ人間」を返上しようと奮闘する「片付けられない女」のサバイバル・ダイアリー。(見開きより)

	病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
32	高機能自閉症	僕の妻はエイリアン「高機能自閉症」との不思議な結婚生活	泉 流星 一般人	新潮社	2005	916/イス	高機能自閉症の妻(著者)が夫(本文では語り手「僕」として描かれる)の視点から書いた夫婦の日常生活 この本は、一見ごく普通の人に見えるのに、実は生まれつき脳のつくりやはたらきが微妙に違うため発達段階がうまくいかず(発達障害)、大人になった今も社会性やコミュニケーション能力に問題があって、世の中に適応し普通に生活することが難しい(自閉症関連の障害)という、自称「地球生まれの異星人」ことへんで不思議な妻と、いたって普通の地球人サラリーマンである技術者の夫、つまり私たち夫婦の生活を書いたものです。(「著者あとがき」p232より)
33	進行性筋ジストロフィー	たとえばくに明日はなくとも	石川 正一 一般人	立風書房	1973	915.9/1	本人・家族・周囲の人々による手記
34	進行性筋ジストロフィー	めぐり逢うべき誰かのために 明日なき生命の詩	石川 正一・石川 左門 一般人	立風書房	1982	915.9/1	本人による口述の闘病記、家族それぞれの手記 父は息子の闘病のため利殖し福祉運動に専念、難病者が安心して共に生きる「地域ケアの体制づくり」を立ち上げていく。
35	進行性筋ジストロフィー	命の詩に心のVサイン 筋ジストロフィーを生きたばかりの26年	栗原 征史 一般人	ラ・テール出版局	1999	916/ウ	本人や周囲の人々による手記 現在僕は26歳。自力で呼吸できなくなって気管切開をし、人工呼吸器を24時間装着したベッド上での生活が常態となってしまった。筋肉の衰えは着実に進行しているのだ。あの頃も死と向き合う日々ではあったが、その切迫感が今は激しくぼくを苛む。けれども、あの頃と同じ、少年のような心と気力、チャレンジ精神だけは失うまいと心している。もがいているというのが正確かー。(中略)2冊目の本は、この6年間に発行した「栗原新聞」を中心に編集される。(「はじめに」p.6-7より)
36	進行性筋ジストロフィー	車椅子・残酷な青春	ありのまま舎/編 一般人団体	エール出版社	1977	916/クル	患者たちによる詩文集
37	デュシェンヌ型筋ジストロフィー	魚になれた日 筋ジストロフィー青年のパークレイ留学記	貝谷 嘉洋 一般人	講談社	1999	916/カイ	本人によるパークレイ留学の記録 全身の筋力が弱くなり運動機能が低下する難病、筋ジストロフィー。14歳で歩行不能になり、車いす全面介助の生活となる。家族と少ない理解者に支えられて、大学卒業後、アメリカ・パークレイに留学。自立して生活し、社会に貢献する仲間を見て勇気づけられ、自己実現をはかっていく。(見開きより)
38	デュシェンヌ型筋ジストロフィー	神様からの贈り物	土屋 竜一 シンガーソングライター	角川書店	2002	916/ツチ	本人による闘病と恋愛から結婚、娘の誕生まで 筋ジストロフィーと闘いながら、生きることの意味、人を愛することの素晴らしさを綴った音楽家のノンフィクション・エッセイ。多くの障壁を乗り越え結婚、その後も幸福を実現していく著者夫妻の感動的な姿を綴る。

病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
39	筋萎縮性側索硬化症 まぶたでつづるALSの日々	土居 巍・土居 喜久子 不明	白水社	1998	493.6	夫による妻の闘病の記録・妻の手記・医師のコメント 私は 呼吸器につながれて 生かされています 喋ること 食べることもできず 手も足も全く動かない 丸太ん棒人間ですが 神様は たった一つ 動く機能を 残して下さいました (中略) まぶたきで あいうえお版の文字を拾い 漢字に変換しながら 意志の伝達 手紙などを打ち 希望をもって 忙しく生きております (中略) 今を全力で生きることの 大切さ 命の 尊さを 実感しながら 私を支えてくれるワープロに ウィンク送り (中略) 時間の許す限り 努力を重ね 精一杯頑張って 生きる日々を 過ごしています (まえがき「目で打つワープロで印字した原稿」より)
40	筋萎縮性側索硬化症 翔べ、自由に 神経難病とともに	篠原 糸美 一般人(高知県)	静山社	1990	K915/シノ	本人による闘病記、家族や医師のコメント含む
41	筋萎縮性側索硬化症 悪妻とのたたかい 神経難病ALSと共に	松本 茂 農業(高知県)	静山社	1995	K916/マツ	本人による闘病記、家族や医師のコメント含む
42	重症筋無力症 笑いたくても笑えなかった ある重症筋無力症の記録	日吉 敬 雑誌社勤務	草思社	1983	915.9/H	本人による闘病記
43	小児麻痺 光とともに	梅原 和 一般人	高知県文教協会内「光とともに」刊行会	1963	K916/ウメ	本人による闘病記
44	パーキンソン病 頑張らないで	岡田 行美 医療福祉専門学校非常勤講師	新風舎	2001	916/オカ	本人による闘病記 もうだめだと思うときは休んでいけばいい。頑張らなくてもいい、いつかは過ぎ去るから。それを信じて待つ、与えられた“生”を全うするために、そして最後の日に 生きていてよかった と言うために……。 (「あとがき」p.102より)
45	ギラン・バレー症候群 笑いごとじゃない 世にも明るい闘病記	ジョセフ・ヘラーほか 風刺作家・小説家・戯曲家	TBSブリタニカ	1987	935/H	本人の発病から回復への過程を友人と交代で一篇ずつ綴る。

### 3 こころの病気

病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
1 うつ病	パパはマイナス50点	小山 明子 元女優、映画監督大島渚氏の妻	集英社	2005	778.2	夫(脳溢血)の看護と、本人のうつ病闘病記
2 うつ病	ビジネスマン「うつ」からの脱出	楠木 新 大手企業勤務	創元社	2003	916/クス	本人による闘病記とうつ対処法 医師を訪れる、療養休暇の手続きをするなどといった具体的な対処法と、ビジネスマンたちがどうやって「うつ」から脱出したかを紹介。希望に満ちた日々を迎えるまでの、平凡にして普遍的なあるビジネスマンの手記。
3 うつ病	やまない雨はない 妻の死、うつ病、それから...	倉嶋 厚 気象キャスター	文藝春秋	2002	916/クワ	妻(胆管細胞がん)の死後、夫本人のうつ闘病記 妻を送った後、どうしたら死ねるかということばかりが頭を占めていました。幾度となく自宅マンションの屋上へと通いましたが、最期の一步が踏み出せません。ある日、とうとう柵を越え、屋上の縁に立ちました。これで全ては終わる。そう思った瞬間、ついに私は跳んだのです。(見聞きより)
4 うつ病	私、引きこもり主婦です。どんな自分にも「YES!」を	さとう まきこ 作家(児童文学)	講談社	2002	916/サト	本人による闘病記 突然襲ってきた深い落ちこみと絶望感、孤立感、他人への恐怖感。人に会いたくない、外が怖い…。家族にもわかりにくかった辛い日々を回想し、今後の生き方を探る手記。潜在化する「引きこもり主婦」にエールを送る。
5 うつ病	凄絶な生還 うつ病になってよかった	竹脇 無我 役者	マキノ出版	2003	916/タケ	本人による闘病記 父の自殺、次兄の夭折、長兄の失明、自身の離婚…。うつ病になり、8年の闘病で地獄を見た著者が、「また芝居がしたい」と再生するまでを綴った感動手記。うつ病を正しく知るための参考書としても最適。
6 うつ病	うつから現へ 今日よりまぶしい明日	脇 るみ子 一般人	PHPエディターズ・グループ	2006	916/ワキ	本人による闘病記(自殺未遂から回復まで) うつは次第に著者を蝕んでいき、やがて自殺未遂へ…。九死に一生を得、自らを死へと導いたうつとの対峙を決めた著者が、自分を受け止めてくれる医療と出遭い、希望を取り戻すまでの日々を綴った真実の手記。
7 躁うつ病	ぼくの心をなおしてください	原田 宗典・町沢 静夫 作家・精神科医	幻冬舎	2002	493.7	躁うつ病の作家本人と、精神科医との対談 本書は、ほぼ達人の域に達する出来の良い先生と、ほぼ愚鈍の域に陥る出来の悪い生徒とのやりとりの記録である。(「プロローグ」p.13より)
8 精神病性うつ病	うつ、その深き淵より	ピート・C・カイパー 精神医学者	創元社	1997	493.7	精神医学者本人の精神病性うつ病の体験と克服まで うつ病の原因は一般に、生物学的・身体的、および精神的・社会的なものである。しかし、治療に際してはもう一つ別の視点をもつことが非常に大切になる。というのも、普通うつ病患者は、自分がうつ病であることを認識していないからだ。(「まえがき」より)

	病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
9	パニック障害	パニック障害に負けない 不安恐怖症の体験・克服記	貝谷 久宣／編 不安・抑うつ臨床研究会／編  不安障害と感情障害についての臨床研究を行い、最新の情報を提供し、この分野の医療水準を高めることを目的に、精神神経科・心療内科の専門医、臨床心理士の有志によって設立された研究会	日本評論社	1999	493.7	パニック障害経験者の体験談や手記(医師コメント付き)、医師の対談、Q&Aなど  この本は患者さんの手記が中心になっています。とりわけ、芥川賞作家である南木佳士先生の医師としての実感的パニック論は白眉の体験談の一つであると思われます。さらに、東京大学名誉教授の辻村明先生には森田療法の見地から貴重なご意見を提出していただきました。(中略) パニック障害の大変さを多くの人々に理解していただく助けとなるとともに、パニック障害患者さんには、同病の仲間がどのように感じ、どのように対処しているかといった情報を提供するものです。(「はじめに」より)
10	強迫性障害(OCD)	強迫性障害からの脱出	リー・ベアー  ハーバード医科大学精神科心理学準教授(当時)・OCD部門研究主任	晶文社	2000	493.7	専門医師による行動療法の多数の実例  自分でおかしいとわかっているのに、次々とわきおこる不安から、奇妙な行動をくり返してしまう強迫性障害。現在、多くの人々が病院にもいけず、一人苦しんでいる。このやっかいな病のもっとも効果的な治療が、行動療法だ。不安を抑えるために、具体的な行動目標をくり返し実行することで、自分をコントロールする方法を身につけていく。(中略)国際的に名高い治療家が、数多くの臨床経験を踏まえ、読みながら治療できるように、わかりやすく実践方法を紹介する。(見開きより)
11	強迫性障害(OCD)	手を洗うのが止められない 強迫性障害	ジュディス・ラパポート  OCD研究者・米国立精神衛生研究所小児精神科主任	晶文社	1996	493.7	精神科医による多数の実例の記録、本人や家族の手記  「こんなことは止めたい。でも、どうしようもないんだ。私は狂ってゆくのだろうか」何時間も続けて手を洗う少年。部屋中に砂糖を撒く女性。家の戸をくぐれない大学生。ゴミで埋まった家に住むOL。部屋を綺麗に保つために公園で眠る弁護士。髪や睫毛を抜かずにはいられない主婦―。日常生活を蝕み、人生を奇妙な儀式や思い込みで支配してしまう強迫性障害。全米では400万を越える人々が苦しんでいる。この謎の病と20年間むきあってきた精神科医が、病を隠し不安に苛まれる患者たちの生の声を聞きとり、具体的な治療法を綴る。(見開きより)
12	強迫神経症で自殺、脳死となる	犠牲サクリフェイス わが息子・脳死の11日	柳田 邦男 ノンフィクション作家	文藝春秋	1995	915.9/Y	父による息子の神経症の回想と自殺後の脳死の記録(本人死亡)
13	強迫神経症で自殺、脳死となる	『犠牲』サクリフェイスへの手紙	柳田 邦男 ノンフィクション作家	文藝春秋	1998	916/ヤナ	前作への読者からの手紙、著者の対談など
14	統合失調症	<心の病>をくぐりぬけて	森 実恵  一般人	岩波書店	2006	493.7	本人による手記・読者からのコメント  多くの人が直面していると言われる「心の病」。当事者として、統合失調症の患者体験、そして自らを取り巻く社会を、細やかに、時にはユーモアを交えて語る。読売新聞連載時の読者からの反響も収録。

	病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
15	統合失調症	ぼくは統合失調症	川村 実 フリーター	雲母書房	2006	493.7	本人の手記と、他の患者や家族への助言、病への思いなど
16	統合失調症	白樺の傷 統合失調者の手記	柏樹 弘二 一般人	杉並けやき出版	2008	916/カシ	本人と「蘭」の会会員数名による手記 精神統合失調症は、脳の異常による危険で特殊な病か…。エッセイを書き始めて40数年、小さな精神障害者回復クラブに所属する著者が、コツコツと綴ってきた文章をまとめた生活手記。
17	AC・アルコール依存症	ACブルース	小林 哲夫 海運業・高知県断酒会連合会会長	高知新聞社	1993	K493/65	本人による闘病記
18	アルコール依存症・その他依存症	命のリレー 依存症からの脱出	村上 伸二 一般人(高知県)	飛鳥出版室	2002	K493/108	本人による手記
19	過食症	それでも吐き続けた私 過食症を克服した29歳の記録	富田 香里 一般人	講談社	1997	916/トミ	本人による闘病記 書きながら、私のやってきたことって摂食障害を抜きにしてもありえることだな、と思った。離婚したり、会社をやめて海外に出たり、なんてよくある話だ。過食嘔吐という症状があったから、それを中心に書いたけれど、三十歳成人説を裏付けるような話になったな、と思う。(見開きより)
20	過食症	エステ地獄	藤崎 かな子 一般人(OL)	フーコー	1998	916/フシ	本人による体験記 世の女性の永遠のテーマ、美しくなりたい！それを名付けて、「エステ地獄」と私は呼ぶ。今、女性が新たな商売の標的とされ、社会問題化される状況にあるという現実を知る必要があるのです。(「はじめに」より)
21	拒食症	拒食症なんかには負けないで 摂食障害で悩み苦しむすべての人に	本多 峰子 大学教授	女子栄養大学出版部	2003	493.7	本人による体験記・意見 拒食症に捕われてしまって抜け道が見つからない人や、そのような人のまわりにおいて、一緒に戸惑い、苦しんでいる家族や友人たちが、病気について深く理解できるように書かれた1冊。
22	心因性疼痛障害	椅子がこわい 私の腰痛放浪記	夏樹 静子 作家	文藝春秋	1997	916/ナツ	本人による闘病記 私は、1993年1月から約3年間、原因不明の激しい腰痛と、それに伴う奇怪とさえ感じられるほどの異様な症状や障害に悩まされた。考えられる限りの治療—最後に、どうしても最後まで信じられなかった唯一の正しい治療法に辿りつくまで—(「まえがき」p.5より)

## 4 内臓や血液の病気

	病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
1	食道潰瘍	メント・モリ 私の食道手術体験	後藤 明生 作家	中央公論社	1990	915.9/G	本人による闘病記
2	原発性胆汁性肝硬変	きいろのなみだ 妻の脳死肝移植でわかったこと	吉川 浩司  (株)ちくま代表取締役社長	中経出版	1999	916/ヨシ	夫による妻の闘病と移植の記録。医師からのコメントあり  それは、ある日突然に始まった大いなる試練でした。美佐子の病名告知に始まった、まったく希望のない家族の苦しみと動揺。その中で肝臓移植という、本当にわずかな光明を見出し、実現するために暗闇の中をさまよいつけた日々……。そして私たち家族は、脳死肝移植手術を受けるために、かすかな可能性に賭けて、オーストラリアへ向かったのです。(見開きより)
3	肝硬変	肝移植 私は生きている	青木 慎吾 ビジネスコンサルタント・国際移植患者組織日本支部会長	新潮社	1991	915.9/A	本人による闘病記
4	C型肝炎・肝臓がん	C型肝炎を生きる	尾原 佳代子  元看護師(高知県)	ルネッサンスブックス	2006	K493/125	本人による闘病記(発症から退院まで)と病気・治療情報提供  検査や治療の内容を理解し、主治医の指導の下に、私自身が病気に立ち向かう姿勢が治療への最大の薬であると分かっているにもかかわらず、不安や心配が恐怖となって次々と襲ってきました。こんなとき、どうしようもない孤独感を打ち明けあい病状や治療の情報交換ができれば、悩みや不安を共有することができれば、希望や力が湧いてくるのではないのでしょうか。(「はじめに」より)
5	僧帽弁閉鎖不全	心臓病棟の60日	平沢 正夫 フリージャーナリスト	新潮社	1987	915.9/H	本人による闘病記
6	心肺移植(アイゼンメングー症候群・肺高血圧症)	きらめく生命の海よ	後藤 正治 フリージャーナリスト	潮出版社	1988	915.9/G	心肺移植を待ち望んだ2人の女性患者の交友と彼女たちに関わった人たちのある希望への闘いを綴った記録
7	心筋梗塞	心筋梗塞の前後	水上 勉 作家	文藝春秋	1994	915.9/M	本人による心筋梗塞前後の回想記録
8	腎不全	夜の透析室から	呉那加 著述家	サンルート・看護研修センター	2002	916/クレ	本人による闘病記  透析から移植、そしてウイルス感染による半身麻痺と医療の中にどっぴりと浸かり、まさにそのまっただ中にながら、感じたこと、考えたことを自由に書かせていただいたものである。(「まえがき」p.4より)

	病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
9	ネフローゼ症候群	病院はおもしろい	芹沢 茂登子 電話相談員	法研	1994	K493/68	本人による闘病記
10	喘息	パパとふたりだけにして！ 喘息で逝った娘の手記	君田 なおみ・君田 幸一 不明	三笠書房	1980	915.9/K	父による娘の成長と闘病、死去までの記録・本人の闘病中の手記
11	白血病	白血病の息子が教えてくれた医者的心	丹羽 鞆負 医学博士・丹波免疫研究所所長	草思社	1998	493.1	父による息子の闘病記(死亡) この本では、医師と患者の立場のちがいが、患者が医師に求めるもの、私自身が自分の息子を喪って初めて知った患者と家族の本当の苦しみを詳細につづりました。(「はじめに」p.5より)
12	白血病	微笑がえし 白血病とたたかう家族たちの絆	遠藤 允 フリージャーナリスト	あけび書房	1995	915.9/E	フリージャーナリストによる、骨髄バンク活動を行う患者たちの記録(死亡事例あり)
13	白血病	一本の羽根をください 翼が欲しいから	橋本 明子 全国骨髄バンク推進連絡協議会代表	あいわ出版	1989	915.9/H	母による息子の闘病の記録、骨髄バンク運動の記録など
14	急性骨髄白血病	命よ孫よ 骨髄移植をのりこえた家族の絆――その全記録	大泉 逸郎 歌手	光文社	2000	916/オ	祖父による長男の闘病記 感涙さそう祖父から息子への骨髄移植。闘病の家族を癒す「初孫」の存在に改めて感動を呼ぶ。
15	白血病	私の娘は70cm	行天 都・朝美 一般人(NHK青春メッセージ2000 四国代表)	河出書房新社	2001	916/キ	本人の手記・母による記録 昨日のことは取りかえせない。明日のことはわからない。だから今日を楽しく精一杯生きる―。これは、最後まで生きる希望と夢と笑顔を捨てず、一瞬を大切に生きた娘の心の記録です。
16	ホジキンリンパ腫	こぶしの花	大日方 妙子 一般人	読売新聞社	1983	915.9/K	母による息子の闘病の記録(息子21歳で死亡) 読売「女性ヒューマン・ドキュメンタリー」大賞優秀作品

## 5 エイズ・薬害など

	病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
1	エイズ	ぼくもあなたとおなじ人間です。 エイズと闘った小さな活動家、ンコシ少年の 生涯	ジム・ウーテン ジャーナリスト	早川書房	2006	289.3/シヨ	南アフリカのエイズ問題・エイズと闘った少年の記録(本人死亡) 南アフリカの貧しい家に生まれたンコシは、生まれながらにHIVに感染していた。重篤な症状に苛まれながらも、聡明で朗らかなンコシは、やがて…。世界に向けてエイズ患者差別撲滅を訴えた少年と養母の物語。
2	エイズ	私を抱いてそしてキスして	家田 莊子 女優	文藝春秋	1990	915.9/I	アメリカのエイズ問題・患者と接した記録(登場人物死亡)
3	エイズ	苦悩するアメリカの「エイズ」レポート	宮本 巖・植田 美津江 ジャーナリスト/医学研究員	エフエー出版	1993	915.9/M	アメリカのエイズ問題のレポート
4	エイズ	いのちの贈りもの 犬、猫、小鳥、そして夫へ	大塚 敦子 報道写真家	岩波書店	1997	916/オオ	報道写真家による、アメリカ人女性ジェニーとその家族の記録(本人死亡) 若くして突然、死に至る病を宣告されたら……。彼女は何を模索し、何を 得たのか。近い人はいかにして残された日々をともに生き、いつもそばに いた犬、猫、小鳥はどのように彼女を支えたのか。さらに、伴侶を失った者 にとっての「喪の作業」とは？ 29歳でエイズで逝ったアメリカ人女性ジェニー。 彼女とその家族の最期の3年間、そして残された夫が悲しみを癒し、森に遺 灰を撒くまでの1年間を撮り続けた、生と死の記録。(見開きより)
5	エイズ	醒めない夢 エイズ・ウィルス感染を告知さ れた日本人の真実の叫び	志村 岳 ノンフィクション作家	小学館	1998	916/シム	ノンフィクション作家による、6名の患者のドキュメンタリー(死亡事例あり) 今後、『感染症と人間の戦い』は、さらに過酷なものとなっていこう。だから こそ、私たちは、動揺する事なくこれらのウィルスの実態とその正しい予防 法を学び、不幸にも罹患した人々の記録から、闘いの手助けとなるヒントを 見つけ出さなくてはならないと思う。(「あとがき」p.220より)
6	エイズ・薬 害エイズ	エイズと生きる時代	池田 恵理子 NHKディレクター	岩波書店	1993	915.9/I	エイズ問題のルポ
7	薬害エイズ	エイズ犯罪 血友病患者の悲劇	櫻井 よしこ フリージャーナリスト	中央公論社	1996(8版)	915.9/S	フリージャーナリストによる東京HIV訴訟の記録 本書は九三年から九四年にかけて、雑誌『中央公論』に連載した記事を元 に、まとめたものである。取材は北海道から九州にまで及んだ。多くの地方 都市をまわり、多くの方々の心の叫びを聴かせていただいた。(「あとがき」 p.282より)

病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
8	薬害エイズ 現在(いま)生きる 川田龍平・悦子の親子対談	川田龍平・川田悦子 東京HIV訴訟原告	新日本出版社	1998	916/カ	本人と母の対談 本書は、少年少女新聞連載の対談「ぼくは負けない」(1997年4月6日号～9月14日号)に、さらに二回の対談を加えてまとめたものです。(まえがきより)小さいころから、つらい治療も積極的に受けることができたのは、自分が血友病だということ、HIVに感染しているということを知っていたからなのね。それと、なぜこういう目に遭わなくてはいけなかったのかという真実、この両方の真実を知り現実と向き合うことが、とても大切な意味を持っていたということなのね。(本文p.104、悦子の言葉より)
9	サリドマイド障害 典子44歳 いま、伝えたい	白井 のり子 一般人	光文社	2006	916/ソ	本人による闘病記「典子は、今」で映画化された。 両腕のないサリドマイド児として生まれた著者が、結婚、二児の子育てを経て、この春、熊本市役所を退職し、講演活動を開始。映画「典子は今」で全国を感動させた彼女が、沈黙を破り、再び羽ばたく…。
10	スモン病 薬害を負うて行く	横山 悦子 一般人	鶴書院	1997	916/ヨ	本人による闘病記
11	スモン病 冬の旅 ー音楽評論家のスモン闘病記	志鳥 栄八郎 音楽評論家	朝日新聞社	1976	760.4/S	1部:本人による闘病記/2部:全国のキノホルム被害者12人のルポ/3部:スモン病総括
12	交通事故による右膝損傷からMRSA感染 院内感染 医師の【MRSAの恐怖】闘病記	辻 和男 医師	自由国民社	1996	915.9/T	本人による闘病記 交通事故から、まさか自分が院内感染(MRSA)になるとは、夢にも思わなかった。最初はそんなたいした経験ではないように思っていたけれど、自分が生き残って今の生活に戻った時、どんなに普通の人が闘病について知らなかったり、患者本人が気づかなくて医療被害にあっているかを知らなかったり、医療の実態を分かれば分かるほど何とかしたいという思いが強くなって、どうしても自分の体験を書くことにした。「はじめに」より)
13	サリン中毒 妻よ！ わが愛と希望と闘いの日々	河野 義行 著述家	潮出版社	1998	916/コウ	1995年3月20日松本サリン事件による被害者妻の介護の記録。 1976年10月に澄子と結婚し、平々凡々と暮らしてきたが、94年6月27日深夜、毒ガス兵器サリンが、突然、わが家を襲った。あれから、もう4年が過ぎようとしている。家族全員が被害を受け、妻・澄子はいまだに意識を回復しない。(まえがき「ものいわぬ妻へ。」p.1より)

## 6 その他の病気

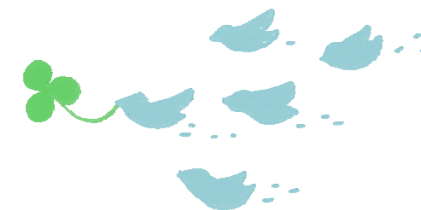
	病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
1	子宮内膜症	ドキュメント子宮内膜症 ただの生理痛と 思っていたら…、ある日激痛が！！	中山 あゆみ フリーライター	法研	1996	495.4	本人による闘病記  この手記は、1992年9月18日の深夜に始まり現在に至るまで約3年半にわたる私と子宮内膜症とのつきあいを綴ったものである。(中略) 患者の立場で感じたことを思うままに表現した。(「あとがき」p.205より)
2	不妊症	あなたの子宮を貸してください	平井 美帆 ルポライター	講談社	2006	495.4	ルポライターによる、日米の代理出産の実情ルポタージュ  アメリカの代理出産エージェンシーや、代理母を経験した女性たちへの豊富なインタビューから見えてきた「代理出産」の真実とは。日米韓3元取材による、心に染みるノンフィクション。
3	更年期障害	わたしの更年期事情 女50代からの生き方革命	樋口 恵子／編	旬報社	1998	495.1	女性たちの手記・アンケート結果・対談など  ようやく国際的にも国内的にも更年期の健康に光が当たりはじめました。厚生省の委託研究として「女性の心身障害研究」の中に、リプロダクティブ・ライツ／ヘルスの概念を受けて、「生涯を通じた女性の健康づくり」が設定されました。この中の資料編は、私たちがその中で与えられた「更年期における女性の健康支援に関する研究」の資料として当日の参加者などに行ったアンケート調査の結果と分析です。(「あとがき」p.223より)
4	膠原病	銀のしずく	古結 芳子 一般人	エピック	1995	915.9/K	本人による闘病記
5	膠原病(診断がつく前に自殺)	膠原病の疑いに妻死す	高永 武敏 執筆家	恒文社	1987	915.9/T	夫による妻の自殺までの記録、妻の闘病手記、モンゴル見聞記(妻が自殺する前に出版予定だったものを、追悼の意をこめて収録)
6	「寝たきり」状態	寝たきりの春	加藤 仁 ノンフィクション作家	精興社	1993	915.9/K	ノンフィクション作家による、「寝たきり」になっても生き抜く老人たちのドキュメンタリー
7	骨粗しょう症による圧迫骨折	寝たきり婆あ猛語録	門野 晴子 執筆家	講談社	1996	916/か	娘による寝たきりの母の介護の記録  この本は、お年寄りたちへの応援歌でもあり、介護する側のボヤキでもあり、拙宅ほどひどくないわとホッとしてくださるもよし、親をこきおろしてけしからんと怒るもよし、女に介護を押しつけるのは間違っていると社会正義に目覚めてくださっても、ただ笑って読み捨ててくださっても、どう読んでくださってもかまいません。開き直って本心を言えば、介護に閉ざされた私としては、ゴーツク婆あをネタにするくらいのがんがなければやってらんない、というところだ。(見開きより)

病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
8	骨粗しょう症による圧迫骨折 寝たきり婆あ、立ち上がる！！	門野 晴子 執筆家	講談社	1997	916/か	娘による寝たきりの母の介護の記録 「いいんだよ、もうじき死ぬんだから」孫娘がアメリカへ留学したあと、寝たきり婆あが自立した！？ シリアスな介護問題を笑い飛ばす、ノーテンキな女系家族騒動記。
9	リュウマチ 痛みの消えた朝 私のリュウマチ5000日闘病記	長谷川 季子 宝塚歌劇団員	講談社	1984	915.9/H	本人による闘病記
10	リュウマチ 慢性関節炎 妻の日の愛のかたみに 新装判	池上 三重子 教師	サンケイ新聞社出版局	1968	915.9/I	本人による闘病記
11	脊髄腫瘍 足がだめでも手があるさ	滝口 仲秋 元教師	日本図書センター	2002	916/ぢ	本人による闘病記 脊髄腫瘍に侵され、四半世紀にわたり治療と機能回復に全力を注ぎ込むが、4回目の手術後、下半身完全麻痺に。そのショックから立ち直り「足がだめでも手があるさ」と、世界を駆け巡る著者が贈る勇気が出る1冊。
12	変形性股関節症 左足は反抗期 変形性股関節症騒動記	吉田 香 一般人	文芸社	1997	916/フル	本人による闘病記
13	頸髄外傷 愛、深き淵より。筆をくわえて綴った生命の記録	星野 富弘 元体育教師、詩画家	立風書房	1981	915.9/H	本人による手記、カルテより、母の回想
14	筋肉種 明と共に たくさんの楽しい思い出ありがとう	国弘 博之・国弘 久仁枝／編集 一般人	国弘博之	1991	915.9/A	父・母による息子の闘病の日記(巻末に本人の幼いころの作文など含む)
15	不発弾爆発による失明・両手首切断 甦る翼の航跡 手と光を失った少年が教師になるまでの苦闘の物語	土井 大助 元新聞記者・著述業	一光社	1979	919.5/D	元新聞記者が、本人の著書を定本に、本人と家族への取材で一部補足をしてまとめた成長の記録
16	視力障害 遠きにありて	沖 郁子 はり・マッサージ業	沖 郁子	1993	K916/オキ	本人による闘病記
17	円形脱毛症 誰も知らない円形脱毛症	阿部 更織(編)	同時代社	2001	494.8	患者たちの手記・巻末にかつらカウンセラーおよび医師からの解説あり 男女ともに発症年齢や症状の現れ方がまちまちな円形脱毛症。みなさんは円形脱毛症についてどれだけのことをご存知ですか？そして、あなたの持っている円形脱毛症への認識は、ホントに正しい情報から得たものでしょうか？(「はじめに」p.15より)

	病種	書名	著者	出版社	出版年	請求番号	概要
18	顔面疾患・外傷	見つめられる顔 ユニークフェイスの体験	石井 政之ほか(編)	高文研	2001	494.8	患者たちの手記・親の手記・巻末に資料あり 顔にアザや傷があることで、なぜ生きることが苦しいのか。顔にハンディを持つ人たちの苦悩と心の傷。当事者とその家族が綴る体験談集。
19	各種疾患(糖尿病・狭心症・腎臓病・肝硬変など)	生きているって素晴らしい 笑いと涙の闘病記	木暮 実千代 女優	アイベック	1989	778.21/K	本人の闘病記。糖尿病、腎不全、狭心症など多数の疾患を併発し二度危篤状態に陥って奇跡的に生還し、自宅で腹膜透析をしながら闘病している。
20	慢性疼痛	癒されて生きる	柳澤 桂子 生命科学者	岩波書店	1998	914.6/ヤナ	本人による闘病記 激しい痛み、入院の繰り返し、そしてついに失職。そんな悲しみと絶望の淵で遭遇した神秘体験。30年近い年月を原因不明の病気とともに生きてきた著者は、いかにして癒され、生きがいを持つことができるようになったのだろうか。人間を見ない現代医療への問題提起、すばらしい医師や看護婦との出会い、音楽や絵画の楽しみ、科学と宗教をめぐる思索の軌跡を静かに語り、苦しみながら生きる人々に限りない勇気と共感を与える。(見開きより)
21	容貌障害	あなたは顔で差別をしますか「容貌障害」と闘った五十年	藤井 輝明 医学博士、看護師 東京大学大学院客員研究員、日本健康医学会学術評議員	講談社	2008	916/フシ	海綿状血管腫である本人の体験談、活動の記録と、容貌障害家族会のメンバーの手記など 海綿状血管腫による顔のむくみで、就職試験も不合格になった著者。いかにして顔の障害を受容し、偏見を乗り越えてきたか。著者の半生、誰にとっても暮らしやすい社会を目指すための考え、活動を綴る。
22	水頭症	雨のち晴子 水頭症の子と父のものがたり	山下 泰司 フリーランスライター	晶文社	2000	916/ヤマ	父による難病の娘の「子育て」エッセイ。水頭症メーリングリストを立ち上げ、日本水頭症協会を設立する。巻末に関連団体やHPの連絡先あり 生まれてきた子どもは水頭症だった。持ち前のバイタリティで立ち向かう、普通の家族の普通じゃない日常を綴る「子育て」エッセイ。

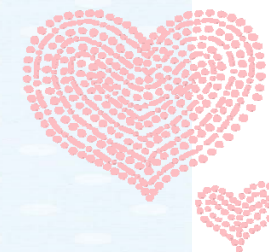


## 闘病記をさがすには ～参考サイト集～



近年、様々な図書館や団体が闘病記文庫の設置に取り組んでおり、インターネットでも闘病記をさがすことができるようになってきました。闘病記を検索できる機能や、ブックリストを公開しているサイトには、例えば下記のようなものがあります（順不同、2009年4月現在）。

- 闘病記ライブラリー(研究グループ「健康情報棚プロジェクト」協力によりNPO法人「連想出版」が運営。  
闘病記 700 冊を病名ごとに仮想書架に分類して、病名から簡単に見つけられる) <http://toubyoki.info/>
- パラメディカ(闘病記・一般向医療関連書専門のオンライン古書店) <http://homepage3.nifty.com/paramedica/>
- 国立国会図書館 テーマ別調べ案内「闘病記・看護記を探す」 [http://www.ndl.go.jp/jp/data/theme/theme\\_honbun\\_400087.html](http://www.ndl.go.jp/jp/data/theme/theme_honbun_400087.html)
- 東京都立中央図書館 闘病記文庫 <http://www.library.metro.tokyo.jp/1n/1n05.html>
- 鳥取県立図書館 闘病記文庫 <http://www.library.pref.tottori.jp/medical/toubyoki.html>
- 広島市立図書館 闘病記コーナー <http://www.library.city.hiroshima.jp/link/toubyou.html>
- 市川市立図書館 闘病記資料病名検索 <https://opac.city.ichikawa.chiba.jp/tbl.htm>
- 八千代市立図書館 闘病記リスト <http://www.library.yachiyo.chiba.jp/modules/tinyd5/index.php?id=198>
- 横浜市立図書館 所蔵闘病記目録 [http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/library/theme/toubyouki\\_list.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/library/theme/toubyouki_list.html)
- 狭山市立図書館 闘病記関連蔵書目次  
<http://www.lib.city.sayama.saitama.jp/temporaryinformation/booklist/booklist-toubyouki/booklist-toubyouki-index.htm>
- 南部町立図書館 闘病記文庫 <http://www.town.nanbu.tottori.jp/p/toshokan/toubyoki/list/>
- 愛媛大学図書館医学部分館 闘病記文庫疾患別リスト <http://www.lib.ehime-u.ac.jp/IGAKU/contents/medshiryo.html#tobyoki>
- 大阪府立大学療養学習支援センター 闘病記文庫蔵書リスト [http://www.osaka-hsu.ac.jp/library/lib\\_files/tb/t\\_index.html](http://www.osaka-hsu.ac.jp/library/lib_files/tb/t_index.html)
- 首都大学東京図書館情報センター荒川館 闘病記・医療手記コーナー一覧 <http://www.hs.tmu.ac.jp/lib/literature/hd/index.php>



ご不明な点がございましたら、お気軽に2Fカウンターまでお問い合わせください。

Kochi Prefectural Library / 高知県立図書館  
〒780-0850 高知市丸ノ内 1-1-10  
TEL : 088-872-6307 FAX : 088-872-6479  
<http://www.pref.kochi.lg.jp/~lib/>

